

～Thank you～

谷地南部小学校
校内研究だより
2023. 7. 31
No.7 文責 菅野

白田校長先生を お招きして



6月の学びカフェでは、白田校長先生をお招きして水泳指導について丁寧に教えていただきました。

校長先生、ご自身の経験をもとにお話してくださいました。初めの頃は、水泳は、「やればやるほど速く泳げるようになる」競技なので、昔は寒い日も暑い日もとりあえずたくさん泳がせていたそうです。私が小学生の頃も何度も泳いでいた記憶があります。1000Mも泳ぎました。走ることより泳ぐことの方が好きだった私にとって、水泳は楽しい授業でした。一方で、苦手な同級生は水泳の授業が嫌いだったそうです。

本来、体育はできることで楽しいと感じる教科です。校長先生も、ただ長い距離を泳がせる水泳指導に疑問をもたれ、子どもたちが楽しいと感じる授業に変えられたそうです。「とりあえずたくさん泳ぐ」ではなく、「やるべきことを必要最低限にしていこう」と校長先生は考えられました。

例えば、必要最低限にするとは…ビート版を使用したキックの練習で息継ぎは行わないように工夫することです。息継ぎもしてしまうと子どもたちは、意識しなければいけないポイントが多く、キックの練習を全力で行えなくなってしまうからです。そこで、ビート版の持ち方を工夫して、今何に重点を置いて練習させたいのかを明確にしました。当たり前を見直し、「何のためにしているのか」という問い直しが水泳指導にも大切です。

また、日頃の授業の指導とつながる点もありました。一つ目は、してはいけないことを注意するのではなく、教師側が望む行動を指導する点です。「廊下を走るな。」と注意するより、「廊下は歩こう。」と伝える方が子どもは何をすべきか分かりやすいです。二つ目は、子どもに決めさせる点です。校長先生は、「私はこう考えてきたんだけど、みんなはどうする？」と必ず聞いて子ども達に決めさせていたそうです。やはり、させられるのではなく、自分で決めてやるという自己決定は子どものやる気や成長に大きくつながる大切なことだと思いました。

今後の予定（前期） ※追加あります。ぜひご参加ください。

日程	内容
8月25日	生徒指導提要について（鹿間先生） 所見の書き方・個人面談の進め方について
9月4日	早稲田大学 小林教授と大学生と学びカフェ